

令和 7 年度

## 教育委員会の自己点検・評価報告書

【令和 6 年度事業対象】

令和 7 年 1 2 月

中央市教育委員会

# 目 次

ページ

## I はじめに

- 1. 趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3. 点検・評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. 報告書の公表・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

## II 教育委員会の活動及び運営状況

- 1. 教育委員会委員構成・・・・・・・・・・・・ 4
- 2. 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・ 4
- 3. その他活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## III 令和6年度教育委員会の点検・評価シート

- 1. 教育委員会の活動状況に対する点検・評価・・・・・・・・ 1 3
- 2. 教育委員会の事務事業の執行状況に対する点検・評価・・・・・・・・ 1 4
- 3. 前年度の点検評価結果における課題に対する取組状況に対する点検・評価 2 7

## IV 教育委員会の点検・評価に関する学識経験者からの意見・・・・・・・・ 2 8

## I はじめに

### 1. 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと定められています。

中央市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和6年度に実施した事務事業への取組について、点検及び評価を行い、学識経験を有する者の意見を付し、報告書にとりまとめました。

#### 【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

昭和31年法律第162号

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2. 点検・評価の対象

教育委員会の活動状況及び第2次中央市教育振興基本計画(令和2年3月策定：令和7年3月中間見直し)に示す施策の執行状況やその成果等について、点検及び評価を実施しました。

### ●第2次中央市教育振興基本計画における施策の体系

教育の基本「まごころ」		
基本目標	基本方針	施策の方向性
次代を切り拓く力を養う教育の実現	調和のとれた知・徳・体を育成します	確かな学力の育成
		豊かな心の育成
		健やかな体の育成
		幼保・小・中の連携
	学校・家庭・地域の連携により教育の質の向上を図ります	学校と家庭と地域の連携強化
		家庭・地域の教育力の向上
生涯成長することができる学習環境の形成	いきいきと学び続けられる生涯学習の充実を図ります	生涯学習の推進
		生涯スポーツの推進
		図書館活動の推進
		歴史・文化の継承
誰もが確かな学びを受けられる教育体制の整備	多様なニーズへ対応するための教育機会の創出と充実を図ります	教育機会の保障
	教育の質を向上するための基盤整備を行います	学校施設の整備
		学校における働き方改革の推進

### 3. 点検・評価の方法

#### (1) 点検・評価の内容

##### ① 教育委員会の活動状況

教育委員会の活動状況の報告を行い、定例会及び臨時会の運営改善、会議の公開、情報の発信及びその他の活動状況等の点検・評価を行いました。

##### ② 事務事業の執行状況

第2次中央市教育振興基本計画に掲げる主要施策の執行状況及びその成果の点検・評価を行いました。

#### (2) 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の者から意見を聴取しました。

### 4. 報告書の公表

報告書は中央市議会に提出するとともに、中央市ホームページ等で公開します。

## II 教育委員会の活動及び運営状況

### 1. 教育委員会委員構成

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育長及び4名の教育委員で組織されています。

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	石 田 秀 博	教 育 長 R 6. 4. 1 ～ R 9. 3.31
教 育 長 職務代理者	志 村 祐 二	職務代理者 R 6. 4. 1 ～ R 7. 3.31 委 員 R 3. 5.17 ～ R 7. 5.16
委 員	石 原 英 一	委 員 R 4. 5.17 ～ R 8. 5.16
委 員	河 西 忠 衛	委 員 R 5. 5.17 ～ R 9. 5.16
委 員	薬 袋 美 和	委 員 R 6. 5.17 ～ R10. 5.16
委 員	保 坂 かおり	委 員 R 2. 5.17 ～ R 6. 5.16

### 2. 教育委員会会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会となります。

令和6年度は、14回（定例会12回、臨時会2回）の会議を開催しました。

#### 付議議案・報告事項

開催月日	会議 区分	事案区分	件 名
4月5日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月の公務経過報告</li> <li>・ 令和6年度中央市教育委員会開催日程について</li> <li>・ 令和6年度年間行事割当予定について</li> <li>・ 教育長職務代理者年度別輪番表</li> <li>・ 令和6年度教育委員会学校職員名簿</li> </ul>

開催月日	会議 区分	事案区分	件 名
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 6 年度市町村教育委員会連合会による県教育施策及び予算に関する要望書への回答</li> <li>・令和 6 年度中北地区教育委員会連合会定例総会及び研修会の開催について</li> <li>・新市教育委員辞令交付及び令和 6 年度第 1 回臨時教育委員会の開催について</li> <li>・令和 6 年度学校訪問日程（案）について</li> <li>・令和 6 年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（茨城大会）の開催について</li> <li>・その他（市関係・教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程）</li> </ul>
		協議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の年間行事について</li> <li>・各学校評価について</li> <li>・学校運営協議会規則の一部改正について</li> <li>・にじいろ教室について</li> <li>・中学校部活動の地域移行推進計画（案）について</li> <li>・スポーツ推進委員協議会委員の委嘱について</li> <li>・文化財保護審議会委員の委嘱について</li> <li>・資料館運営委員会委員の委嘱について</li> </ul>
		そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市社会教育委員・公民館運営審議会委員について</li> <li>・共同学校事務室職員構成について</li> </ul>
5 月 10 日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田教育長の自治会長兼任に関して</li> <li>・4 月の公務経過報告</li> <li>・令和 6 年度年間行事割当予定について</li> <li>・学校再編に向けた「地域検討会議」への今後の取り組み（案）について</li> <li>・「柳正堂書店」のオープンと子ども達が本に親しむ事業の創出について</li> <li>・（新）市教育委員辞令交付及び令和 6 年度第 1 回臨時教育委員会の開催について（再掲）</li> <li>・令和 6 年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（茨城大会）の開催について</li> <li>・市給食センター訪問及び体験給食の中止（取り止め）について</li> <li>・令和 6 年度第 1 回学校給食運営委員会の開催について</li> <li>・小中学校在籍児童生徒数について</li> <li>・その他（市関係・教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程）</li> </ul>
		協議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価について</li> </ul>
		そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食運営委員会委員の委嘱について</li> <li>・給食費無償化の継続について</li> </ul>

開催月日	会議区分	事案区分	件 名
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市立学校備品管理規定の一部を改正する訓令について</li> <li>・学校運営協議会の委員一覧、開催予定表の提示、規則改正について</li> <li>・学校における働き方改革について</li> <li>・新市民体育館の建設（案）について</li> </ul>
5 月 17 日	臨時会	協議事項	・学校訪問の確認事項について
		そ の 他	・なし
6 月 7 日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の公務経過報告</li> <li>・令和6年度「第1回県管理主事市教育委員会訪問」について</li> <li>・令和6年第2回（6月）定例市議会・一般質問通告について（教育委員会関係抜粋）</li> <li>・学校運営協議会の開催について</li> <li>・学校訪問等について</li> <li>・（再掲）令和6年度第1回学校給食運営委員会の開催について</li> <li>・その他（市関係・教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程）</li> </ul>
		協議事項	・中央市スポーツフェスティバルについて
		そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市立田富小学校長寿命化改修（建築主体・電気設備・機械設備）工事について</li> <li>・「令和6年度教科書展示会開催要項」及び「令和6年度第1回学校運営協議会出席者名簿」について</li> </ul>
7 月 5 日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の公務経過報告</li> <li>・夏季休業中の児童生徒への生活等指導の推進及び市防災無線による放送について</li> <li>・教職員の服務規律の確保等について</li> <li>・「玉穂南小地域検討会議」及び「三村小地域検討会議」の開催について</li> <li>・「新市民体育館検討委員会」への報告会（仮称）の開催について</li> <li>・今後の予定について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>
		協議事項	・就学援助について
		そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学校運営協議会の教育委員会としての関わり方について</li> <li>・防災訓練における玉穂中学校区における訓練内容について</li> <li>・地域検討会議スケジュール、内容について</li> <li>・パリオリンピック卓球競技概要、パブリックビューイングの教育委員の出席について</li> <li>・令和6年10月及び11月に開催される市主催大会へ</li> </ul>



開催月日	会議 区分	事案区分	件 名
			の教育委員の参加について ・小中学校の指定体操服の扱いについて（報告） ・各学校における学校プールの老朽化状況について ・「新市民体育館検討委員会」（仮称）への報告会の開催について
8 月 2 日	定例会	報告事項	・8月の公務経過報告 ・市町村教育委員会連合会について ・中北地区教育委員会連合会について ・退職勧奨制度の運用について ・今後の予定について ・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）
		協議事項	・令和7年度使用中学校教科用図書の採択結果について
		そ の 他	・就学援助申請者・認定者数の保留分について ・地域検討会議での意見聴取について（保護者へのアンケート調査内容を含む。）
9 月 6 日	定例会	報告事項	・9月の公務経過報告 ・令和6年第3回定例市議会・一般質問通告要旨（教育委員会関係）について ・令和6年度小学校運動会及び中学校学園祭への教育委員割当について ・今後の予定について ・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）
		協議事項	・二十歳のつどいについて
		そ の 他	・全国学力テストの結果について
10 月 4 日	定例会	報告事項	・10月の公務経過報告 ・令和7年度採用・昇任、校長・教頭候補者の推薦説明会及び市教育委員会による推薦について ・令和6年度第2回管理主事による市教育委員会訪問について ・今後の予定について ・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）
		協議事項	・なし
		教育長が必要と認めた事項	・ランドセル無償配布について
11 月 1 日	定例会	報告事項	・11月の公務経過報告 ・令和7年度採用・昇任、校長・教頭候補者等の推薦及び激励面接の実施について ・三村小及び玉穂南小の学校のあり方について語る会について ・中央市スポーツ協会の代表者（会長）の選任等に伴う打合せ会の開催について

開催月日	会議 区分	事案区分	件 名
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度（R7年度）入学見込者数と本年度（R6年度）入学者数との比較について</li> <li>・今後の予定について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>
		協議事項	・令和6年度教育委員会の自己点検・評価報告について（令和5年度事業対象）
		そ の 他	・なし
11月29日	臨時会	協議事項	・田富小学校長寿命化改修工事について
		そ の 他	・なし
12月6日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の公務経過報告</li> <li>・令和7年度採用・昇任、校長・教頭候補者等の推薦及び激励面接の実施について</li> <li>・令和6年度末人事異動作業日程について</li> <li>・令和6年度第4回定例市議会・一般質問通告について</li> <li>・今後の予定について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>
		協議事項	・中央市・昭和町教育支援センターについて
		そ の 他	・田富小学校長寿命化改修工事について
1月10日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月の公務経過報告</li> <li>・令和7年3月定例教育委員会開催日程の変更について</li> <li>・令和6年度末人事異動に伴う学校長への意見聴取（ヒアリング）の実施</li> <li>・令和6年度末人事異動に伴う県管理主事等との意見交換について</li> <li>・令和7年度小中学校卒業式割当について</li> <li>・今後の予定について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>
		協議事項	・山梨県市町村教育委員会連合会へ提出する「令和8年度文教施策と予算に関する要望」について
		そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉穂中学校の体育施設利用時間外の使用について</li> <li>・学校でのFAX利用や書類への押印について</li> </ul>
2月7日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の公務経過報告</li> <li>・令和7年3月定例教育委員会開催日程の変更について</li> <li>・中央市総合教育会議の開催について</li> <li>・令和7年度山梨県市町村教育委員会連合会定期総会・春季研修会の開催について</li> <li>・今後の予定について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>

開催月日	会議 区分	事案区分	件 名
		協議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市教育振興基本計画の中間見直しについて</li> <li>・中央市 ICT 推進計画について</li> <li>・就学援助費 新入学児童生徒学用品費入学前支給について</li> </ul>
		そ の 他	・第 86 回国民スポーツ大会（令和 14 年山梨県で開催予定）について
3 月 14 日	定例会	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 月、3 月の公務経過報告</li> <li>・令和 7 年度県教育施策及び予算に関する要望書への回答について</li> <li>・令和 7 年度市内小中学校入学式について</li> <li>・教育長職務代理者について</li> <li>・令和 7 年度中央市教育委員会 定例教育委員会の開催日程について</li> <li>・その他（教育総務関係・学校教育関係・生涯教育関係の行事日程の確認）</li> </ul>
		協議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度当初予算について</li> <li>・教育委員会規則その他規程の制定及び改廃について</li> <li>・令和 7 年度放課後子供教室の実施について</li> </ul>
		そ の 他	・関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会・研修会長野大会について

### 3. その他の活動

#### （1） 学校訪問

市内小学校 6 校、中学校 2 校の学校訪問を実施しました。

訪問日	訪問時間	訪問校
5 月 20 日（月）	13：30～16：30	豊富小学校
5 月 22 日（水）	13：30～16：30	三村小学校
5 月 24 日（金）	13：30～16：30	玉穂中学校
5 月 27 日（月）	13：30～16：30	田富中学校
5 月 28 日（火）	13：30～16：30	田富北小学校
6 月 3 日（月）	13：30～16：30	玉穂南小学校
6 月 21 日（金）	13：30～16：30	田富南小学校
6 月 24 日（月）	13：30～16：30	田富小学校
6 月 26 日（水）	13：30～16：30	教育支援センター（にじいろ教室）、院内学級

## (2) 研修会

次の研修会に参加しました。(主なもの)

期日	研修会	場所
4 月 23 日 (火)	中北地区教育委員会連合会研修会	北巨摩合同庁舎
5 月 31 日 (金)	関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会研修会	茨城県古河市イーエスはなもも体育館
10 月 22 日 (火)	山梨県市町村教育委員会連合会秋季研修会	山梨市市民会館
11 月 18 日 (月)	中北地区教育委員会連合会研修会	昭和町役場
令和7年 2月 21日(金)	山梨県市町村教育委員会連合会春季研修会	県立図書館

## (3) 各種行事・大会等

次の各種行事・大会等に参加しました。(主なもの)

期日	内容
4 月 1 日 (月)	教職員着任式
4 月 4 日 (木)	市立小中学校入学式
5 月 17 日 (金)	新入生ブックプレゼント事業
5 月 25 日 (土)	市立小学校運動会 (玉穂南小学校・田富小学校・田富南小学校)
9 月 19 日 (木)	市立玉穂中学校学園祭
9 月 28 日 (土)	市立小学校運動会 (三村小学校・田富北小学校・豊富小学校)
10 月16 日 (水)	市立田富中学校学園祭
11 月 1 日 (金)	子ども若者育成支援推進大会
令和7年 1 月 12 日 (日)	二十歳のつどい
3 月 12 日 (水)	市立中学校卒業式
3 月 19 日 (水)	市立小学校卒業式
3 月 25 日 (火)	教職員離任式

#### (4) 総合教育会議への出席

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、連携して効果的に教育行政を推進していくため、市長が招集するもので、次のとおり開催され出席しました。

開催期日	場 所	内 容
令和7年2月14日（金）	中央市役所 本館2階 防災対策室2	第2次中央市教育振興基本計画（令和2年度～令和11年度）における中間見直しについて

#### (5) パブリックコメントの実施について

教育行政について広く市民の皆さまのご意見を伺いながら執行するため、パブリックコメントを実施しました。令和6年度は次のとおり意見募集を行いました。

案 件 名	意 見 募 集 期 間	意見 の数
第2次中央市教育振興基本計画の 中間見直し（素案）	令和7年3月3日 ～ 令和7年3月22日	0

#### (6) 学校施設のあり方の検討について

本市の所有する学校施設は半数以上が築30年以上経過しており、これまで「中央市立小中学校施設長寿命化計画」（平成30年度策定）をもとに、学校施設の長寿命化改修を基本とした各学校施設の整備などを進めてきましたが、現在では「新型コロナウイルス感染症」や「GIGAスクール構想」、「少人数学級の推進」等、計画策定時には想定できなかった教育環境の変化が、学校現場に大きな影響を与えています。

そこで、教育委員会では、市全体の今後を見据えた学校のあり方を検討することとし、令和5年度は、各学校において「あり方懇話会」を開催し、各学校の現状と課題、今後の市内小中学校（施設）のあり方についての意見交換を行いました。また、学識経験者や学校教育関係者などを委員とした「中央市立学校のあり方検討委員会」を設置し、子ども達にとって望ましい教育環境の要件、学校の適正規模・適正配置の基準や方向性等、将来を展望した「中央市の学校のあり方に関する提言」（令和5年11月）をいただきました。

令和6年度は、「中央市の学校のあり方に関する提言書」に基づき、今後5年以内に長寿命化改修工事の着手を予定している「三村小学校」及び「玉穂南小学校」について、そのあり方を早急に結論付ける必要があるため、各校の校長、PTA役員、学校運営協議会委員、学区内自治会の会長などを構成員とする「地域検討会議」

を開催し、学校再編に関する意見を伺いました。

また、該当する2小学校と同じ中学校区である豊富小学校でも地域検討会議を開催し、同様に学校再編に関する意見を伺いました。

なお、会議の資料や会議録は市ホームページで公開し、市民の皆さまへの周知を図りました。

○地域検討会議開催状況

令和6年7月16日	玉穂南小学校 第1回地域検討会議
令和6年7月17日	三村小学校 第1回地域検討会議
令和6年8月22日	豊富小学校 第1回地域検討会議
令和6年9月 3日	玉穂南小学校 第2回地域検討会議
令和6年9月10日	三村小学校 第2回地域検討会議
令和7年3月13日	玉穂南小学校 第3回地域検討会議

### Ⅲ 令和6年度教育委員会の点検・評価シート

#### 1. 教育委員会の活動状況に対する点検・評価

<評価区分> 5 目的をはるかに超え、他への波及効果が見られるもの 4 目的以上に達成したもの 3 目的どおり達成したもの 2 目的まで達成できなかったもの 1 目的までまったく達成できなかったもの				
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

区分	項目		実績	成果又は課題	評価
	中項目	小項目			
1	教育委員会 会議の運営	会議の開催回数	○14回(定例会12回・臨時会2回)開催。	○会議規則に基づき、月1回の定例会と、必要に応じて開催できる臨時会2回を開催した。	3
		会議の運営	○定例会は、毎月第1週の金曜日の14時から開催することを年次計画として位置づけ、円滑な開催運営を図った。	○協議案件の提出時期・内容について調整し、会議における議論が活発かつ円滑に行えるよう努めるとともに、会議資料の事前配布等により合理化を図り、効率的な会議運営と慎重審議が行われた。	3
2	教育委員会の 会議の公開・ 情報発信	会議の傍聴者の状況	○会議の開催を事前に市掲示板に告示するとともに、市ホームページに会議の開催のお知らせと傍聴案内を掲載した(傍聴者定数は5名)が傍聴者はなかった。	○傍聴者数 0名 (令和5年度は2名)	3
		議事録の公開、広報活動等の状況	○市ホームページにおいて議事録を公開した。	○教育委員会議事録を公開したことで、会議での決定事項等を伝えることができ、広く情報共有が図られた。	3
3	教育委員会と 事務局の連携	教育委員会と事務局の意思疎通の状況	○会議等を通して事務局と有効で活発なコミュニケーションを行った。	○会議における報告事項では、事業の進捗状況等について委員と事務局とで意見交換を行うことができた。	3
4	教育委員会と 首長との連携	教育委員会と首長の意思疎通の状況	○市長との教育施策における連絡調整及び意見交換を実施した。(令和7年2月14日総合教育会議)	○今後の教育施策への理解や連携が図られ、課題の共有ができた。	3
5	教育委員会の 自己研鑽	研修会、会議等への参加状況	○参考図書(資料)の活用 ○研修会等への積極的な参加 ○生涯教育関係行事等への積極的な参加	○研修会等へ積極的に参加し、市の教育行政に反映できるよう自己研鑽に努めた。	3
6	学校及び教育 施設に対する 支援・条件整備	学校訪問	○市内全小中学校8校への学校訪問の実施、現場管理職や教職員との意見交換と実施した。	○学校施設や授業等の校内視察や学校経営の概要説明を受け、各学校の現状や課題を把握するとともに、教育委員が学校に対して指導・助言を行う機会となった。	3
		学校施設のあり方の検討	○「中央市の学校のあり方に関する提言」(令和5年11月)に基づき、今後のあり方について早急に結論付ける必要がある学校ごとに「地域検討会議」を開催(全6回)し、学校運営協議会委員やPTA、学区自治会長等から学校再編に関する意見を聴取した。	○該当する学校ごとにそれぞれの地域検討会議において意見を伺い、その結果として、次年度において三村小学校区・玉穂南小学校区の代表者による会議を開催し、両学校区における学校再編に関して協議を行うこととなった。	3
		各種行事・大会への参加	○市内公立学校の入学式・卒業式や各種行事等へ参加した。	○学校式典等への参列において、学校の運営や施設などの現状や課題を把握した。	3

## 2. 教育委員会の事務事業の執行状況に対する点検・評価

<p>&lt;評価区分&gt;</p> <p>5 目的をはるかに超え、他への波及効果が見られるもの</p> <p>4 目的以上に達成したもの</p> <p>3 目的どおり達成したもの</p> <p>2 目的まで達成できなかったもの</p> <p>1 目的までまったく達成できなかったもの</p>			
<b>施策の方向性</b>		<b>調和のとれた知徳体の育成</b>	
<b>施策</b>		<b>確かな学力の育成</b>	
<b>事務事業名</b>	<b>実績</b>	<b>成果又は課題</b>	<b>評価</b>
小中学校市単独補助教員等配置事業	○学校を取り巻く環境が多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、児童・生徒一人ひとりのニーズに合わせた、きめ細やかな対応を実現し、誰もが確かな学びを受けられる教育環境を整えるため人員を配置した。	○アクティブクラスへの対応、特別支援教育の推進、基礎学力の向上など、支援を必要とする児童・生徒に対して指導を充実することができた。 ○部活動指導職員の増員により部活動における教員の負担軽減が図ることができた。 ○支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にある中、教員の負担を軽減し、教員が本来の教育活動に集中できる体制の構築につながった。 ○人員配置により、児童生徒一人ひとりの個性や状況に合わせたきめ細かな指導ができる環境を整えることができた。  ●学校教育の水準の維持向上のため、人材の確保が必要である。	<b>3</b>
外国語教育（ALT派遣）推進事業	○外国人指導助手（ALT）を中学校では全校（2校）で配置が完了している。小学校では田富地区（3校）に1名、玉穂・豊富地区（3校）に1名の計4名を兼務により配置し、ネイティブスピーカーの活用により外国語教育を促進した。	○ネイティブスピーカーの活用により、日常的に使う表現や語彙、正確な発音、フレーズに触れることで、より自然で幅広い生きた英語表現を取得する機会の提供につながった。 ○オリジナル学習支援動画を活用し、英語学習に効果的なICTの活用促進を図ることができた。 ○児童生徒が英語を話す国の文化や習慣について理解を深める機会が提供できた。  ●英語環境を整備するため、ALT一人一人の効果的な活用についての検討が必要である。	<b>3</b>
小中学生検定料補助事業	○児童・生徒の学習意欲の向上及び学力向上を図るとともに、保護者の経済的負担軽減を目的として、各種検定料を助成した。	○公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する日本漢字能力検定、同法人が実施する文章読解・作成能力検定、公益法人日本数学検定協会が実施する実用数学技能検定と多様な助成範囲を設け、児童・生徒の学習意欲の向上を図ることができた。 前年度実績を目標値と設定し、令和6年度は申請者数は前年度と同数であったが、漢字検定、数学検定の受験者が増加し、助成金額も全体として達成できた。 ・目標【令和5年度実績（英検のみ）】 申請数223人、助成金額396,350円 ・令和6年度実績 申請数223人、助成金額414,700円 （英検150人、漢検68人、数検5人、文章検0人）  ●受験者数が増加した検定もあったが、児童・生徒の学力向上を図るため、検定受験率向上の取組が必要である。	<b>3</b>
外国人児童生徒等支援事業	○外国籍児童・生徒の増加や多様化に伴い、きめ細やかな支援体制整備が必要とされる中、日本語指導員（市単）・学級担任等の関係職員が連携し、外国籍児童・生徒の実態に応じた支援や指導を実施した。	○日本語指導員とポルトガル語通訳を「三村小学校・田富小学校・田富南小学校・田富中学校」に配置することにより、日本語指導教室での学習支援や外国から直接入国する児童・生徒及び保護者への対応、高校進学や就職等将来の進路に向けた制度の周知など相談体制の充実を図ることができた。  ●玉穂・豊富地区の兼務体制にある学校（玉穂南小学校・豊富小学校・玉穂中学校）に在籍する児童・生徒が増加した場合、必要に応じて任用時間増などを検討する必要がある。	<b>3</b>



学力向上支援スタッフ 配置事業	○理解が十分でない児童・生徒への学力向上を支援するため、市内小中学校7校にスタッフを配置した。 ※令和6年度7名配置	○学習につまづきやすく理解が十分でない児童・生徒への個別指導や全体指導の補助及び学習支援への適応支援を行い、基本的な学習内容の定着、学習意欲の向上に向けて進めることができた。  ●必要とする人数の配置ができるよう、継続したスタッフの確保が必要である。	3
ICT教育推進事業	○令和6年度は「ICT活用教育推進アドバイザー」として山梨大学の准教授に業務委託し、田富北小学校と玉穂中学校にてモデル校事業を実施し、効率的な1人1台端末の利用に向け授業改善に取り組んだ。ICT支援員ともスクラムを組み、教職員がすぐに利用できる授業デジタルツールや校務DXツールを、誰もがいつでも利用ができるようICTポータルサイトの内容の拡充を行った。また、中央市教育ICT推進計画を策定し、5ヵ年の見通しを立てた。 ○児童生徒の個別最適で共同的な学習の推進 ○中央市教育ICT推進計画の策定(令和7年～令和11年度) ○校務DXの推進	○モデル校事業（授業改善への取組） ○1人1台端末の効果的な利用方法について、専門家から直にアドバイスをいただき、授業改善を行うことができた。 ○デジタル先進校の公開授業への視察を行い、取り組める要素を教職員と確認し実践することができた。 ○教職員向け研修の拡充 ・夏期休業期間にGoogle研修を最大回数行ない、Google for Educationを利用した授業ノウハウの習得を促進した。 ○校務DX 中央市ICTポータルサイトにて校務DXの事例などを提供したことにより、学校現場で効率化 → 時間創出 → 授業改善のサイクルの仕組みを確立することができた。  ●令和7年度以降は全校が学校情報化優良校認定を受けるため、これまでの優良取組み事例等を全校に効率的に展開していく必要がある。	3
小中学校教育振興 事業	○学校教育に必要な環境や教職員が効果的な指導を行える環境整備を図り、児童に主体的・意欲的な学習を促進するため、教育、指導に有益な図書を整備した。 ○理科備品等学校の教材備品や体育用消耗品などを整備した。	○児童・生徒に適した図書の蔵書を増やしたことにより、教育や指導に有益な環境が整備できた。 ○随時、理科備品等学校の教材備品や体育用消耗品などを整備することにより、児童生徒の学習環境を整えることができた。 ○デジタル教科書については、指導書は全教科、文部科学省普及事業により学習者用の英語は全校、算数・数学については選定された学校に導入されており、教育現場のICT化に即して教科書の整備を行ったことにより、教育の充実を図ることができた。  ●学習者用デジタル教科書について、文部科学省普及事業への採択状況により利用できる教科が毎年異なるため、各教科を継続して使用できる環境を市独自で整備していく必要がある。	3
中学校語学研修事業	○令和6年度においても渡航による語学研修は実施しなかった。この事業の目的である現地の人々との交流、多文化共生、国際理解を深め、グローバル社会を生きていく人材の育成において、同事業に代わる他事業の展開への研究・調査を行った。	●渡航による語学研修は、保護者の経済的負担などの費用面に加え、生徒の安心安全の確保などこれからの事業実施においては、検証が必要である。 ●A L Tの配置拡大やI C T教材の活用など、一部の生徒に限ることなく、国際理解とコミュニケーション能力を備えた人材育成を図り、外国語や多文化について学習する機会が得られる学習環境の整備が必要である。	2
家庭学習通信機器 整備支援事業	○児童・生徒への家庭学習等の実施を支援するため、家庭にネットワークがない世帯へポケットWi-Fiの貸与を行った。 令和4年度から貸与用ポケットWi-Fiを整備。(19台)	○令和6年度は2台の貸与申請によりポケットWi-Fiの貸与を行い、1人1台端末の持ち帰り学習の促進が図られた。  ●引き続き事業を周知していく必要がある。	3
学力向上推進事業	○学力向上推進委員会の開催 学力向上に向けた授業改善の取組において、各学校間での情報共有を行った。	○学力向上推進委員会において、ICT教育推進におけるモデル校2校によるICTを効果的に活用した授業実践の報告や、オブザーバーとして参加いただいた「ICT活用教育支援アドバイザー」(山梨大学三井一希准教授)の指導ポイントなどを市全体の授業改善及び学力向上の取組につなげることができた。また、各学校への情報共有等を図ることができた。  ●引き続き市立学校全体の学力を向上するためモデル校事業を継続的に実施し、教員のスキルアップを図る必要がある。	3
施策	豊かな心の育成		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
小中学校教育振興 事業	○体験を重視した教育の推進（自然体験教室・ふるさと探訪・農林体験学習・スキー教室・スケート教室等実施） ○福祉教育の推進 （いのちの学習・認知症キッズサポーター養成講座・福祉講話（盲導犬・手話・聴覚障害）・車椅子体験・高齢者疑似体験等 実施）	○児童・生徒が生活体験や社会体験、自然体験など様々なリアルな体験活動を通し、自ら学び考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むことができた。 ○高齢者・障がい者等、交流体験や講話を通じ、福祉についての理解を深めるとともに、他者を思いやる心を養うことができた。  ●時代に即した様々な体験事業や各校で課題として抱えている問題に対応できるような体験活動等を継続的に実施していく必要がある。	3

いじめ問題に対する取組推進事業	○中央市いじめ問題対策連絡協議会を開催した。 開催回数：1回	○中央市いじめ問題対策連絡協議会を開催し、中央市いじめ防止基本方針に基づき、本市のいじめ防止の取組やいじめ問題の状況を共有するとともに、関係機関との連携について共通理解を図ることができた。  ●いじめ問題に適切に対応できるような関係機関との体制づくりや情報連携を強化していく必要がある。	3
心の教室相談員設置事業	○生徒が悩み等を気軽に相談し、ストレスを和らげることができる身近な存在として、子どもの発達上及び教育上の課題・問題における「心理教育的援助サービスの補助的な役割」を担う「準援助専門家」を田富中学校に「心の教室相談員」として配置した。	○「心の教室相談員」の配置により、生徒の相談機会を増やすことができた。また、養護教諭・担任・スクールカウンセラーと連携した相談活動を行うことができた。 ○より身近な相談相手となり、生徒たちが抱える不安や問題を軽減し、不登校などの未然防止・早期発見・早期対応に繋がられている。  ●今後も円滑な相談活動ができるよう関係機関との連携を強化していく必要がある。	3
施策	健やかな体の育成		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
小中学校各種大会出場補助事業	○学校教育の一環として行われる関東大会・全国大会に出場する経費の一部を補助した。 ※令和6年度補助件数：15件	○小中学校各種大会出場への経費の一部を補助することにより、小中学校のスポーツ・文化の活動等への参加を促進するとともに、保護者の負担軽減が図られた。  ●部活動の地域展開の進捗を注視し、スムーズな移行ができるよう担当部署（生涯教育課）との連携が必要である。	3
児童生徒等健康管理事業	○定期健康診断や身体測定の実施 ○各小中学校において学校・PTA・校医・地域の代表者で構成される「学校保健委員会」の開催	○定期健康診断や身体測定により、子どもたちの健康状態を把握し、健康の保持増進を図ることができた。 ○各小中学校の学校保健委員会では、学校保健安全活動について研究協議するとともに、家庭・地域との連絡調整や学校教育の円滑な実施及び健康教育に役立てることができた。  ●定期健診結果のデータ入力などの事務負担軽減など学校からの要望について検討していく必要がある。	3
学校給食センター運営事業	○学校給食センターは、令和元年7月から学校給食衛生管理基準に適合した施設として、市内小中学校8校の給食を開始。 給食調理及び配送等業務は外部委託契約により安全面・衛生面に細心の注意を払い、児童・生徒に給食を提供。 ○センター運営は、管理担当・給食担当により事務執行。	○管理担当は施設・設備の維持管理並びに衛生管理に努め、事業を推進する環境が整備できた。 ○給食担当は、給食物資の調達、保管について、細心の注意を払うことにより栄養面・安全面に配慮した給食の提供ができた。 ○給食の献立作成には、調理担当部門と綿密な打合せによる連携を取り、より適した献立作りにつなげられた。 ○食器、食缶等の洗浄・消毒及び保管についても細心の注意を払い、安全な給食の提供ができた。 ○食器の更新により、安全性の向上や機能面での改善が図ることができた。	3
食育推進事業	○食育の推進 ○地産地消の推進 ○食品ロスを無くす。 ○アレルギーのある児童・生徒に安心安全な給食の提供 ○食中毒の防止 ○地元の食材を使った「まごころ給食」を提供し、郷土の理解を深めた。	○適切な栄養摂取について、市内8校への情報提供を行い、家庭と連携した食育推進につながった。 ○地元の米・野菜を提供し、地産地消の推進を図った。 ○残食を減らす取組みを実践したことにより、食品ロスにつながった。 ○学校給食における食物アレルギー対応指針に基づき、アレルギーのある児童・生徒に安心安全な給食を提供した。 ○学校給食衛生管理基準に基づいた適切な衛生管理を行い、食中毒を防止することができた。 ○栄養食育推進計画に基づき、地場産物を使用した料理、日本の行事にちなんだ行事食や郷土料理、世界の料理などを献立に取り入れたことにより、地域文化の継承、食への関心の向上及び地元の食資源への理解促進を深める機会を提供できた。  ●給食費無償化など国の動向を注視しながらも、これもまでと同様に地産地消の推進を図りながら、食育も継続して実施していく。	3
施策	幼保・小・中の連携		
幼保小中の連携	○市と小学校・保育園・認定こども園等施設が連携を図り、小学校教育への接続が円滑に進むよう取り組んだ。	○保健師と連携する中で、保育園や認定こども園へ訪問し園児観察をして、就学する小学校へ情報提供するとともに、就学相談につなげることができた。	3

施策の方向性	学校と家庭と地域の連携による教育の質の向上		
施策	学校と家庭と地域の連携強化		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
コミュニティ・スクール推進事業	○地域住民や保護者が学校運営に参画するコミュニティ・スクールの推進について、課題把握のため、教育委員会委員が会議に出席する等、事業展開における研究・検討を行い、コミュニティスクールの推進・活動の充実に向け、次年度に各学校の会議等において助言等を行うアドバイザーの派遣費用を予算化した。	○学校運営協議会規則を改め、委員の役割の明文化などにより、協議会における地域と連携・協働した学校づくりへの取組を進められた。  ●次年度以降の事業展開について研究・検討により、コミュニティ・スクールの推進が図られた。今後は、地域の声を聴く中でその要望を反映させた特色ある学校づくりを推進していくことが必要である。	3
放課後子ども教室推進事業	○こども運動教室、ヒップホップダンス教室、子ども学習サポート中央の3教室を開講した。	○活動を希望する小中学生が参加し、いきいきとスポーツや勉強をし、子どもの居場所づくりにつながった。  ●子どもたちの多様化するニーズに応える教室を開催するために指導員の不足や利用施設の確保が課題である。	3
子どもクラブ育成事業	○各自治会で実施する夏祭りや環境美化運動、クリスマス会などへの費用助成 ○ボウリング大会(市全体の親睦球技大会)の実施	○各自治会で実施する夏祭りや環境美化運動、クリスマス会などへの費用を助成することにより、子ども達が親睦、精神の発達を図る機会を創出した。 ○ボウリング大会を実施し、地区の子どもクラブ員相互の親睦を深め、地域を越えた交流と活性化を図ることができた。  ●今後においては、少子化により各地区のクラブ員の減少や指導員不足により各地区の活動の縮小や廃止も懸念されることから、広域的なクラブ運営への指導等計画していく必要がある。	3
キッズアカデミー事業	○市内の小中学生が年間を通じて(活動日は月1回(土曜日)で、5月から翌年3月までの11回)様々な体験学習やスポーツ、レクリエーションなどを参加する子どもたちが自ら話し合い、計画を立てて活動した。 参加児童数22名	○参加した児童・保護者へのアンケート結果では、「参加して良かった」の回答があり、保護者からは、「特別な体験をすることができて良かった」、「他の学校のお友達と交流できてよかった」、「毎年参加させたい」「子どもが苦手とすることの課題を発見することができた」等の児童の成長に関する事業効果を得られ、市内の小中学生が学年・学区を超えたグループ活動から自主性・協調性・社会性などを養う機会となった。  ●本事業は、子どもたちの自主性を尊重した活動を主体として、子どもたちの健全な育成を目指す事業であり、参加した子どもたちや保護者から大変好評をいただいている事業だが、例年の参加者が20名前後と増加していない状況にある。今後、多くの子どもたちがこの事業に参加してもらうための対策が必要である。	3
社会科副読本事業	自分たちが住む地域を知り、郷土愛を育む教育の推進を目的として社会科副読本(小学校3・4年生)の改訂を実施した。	○平成29年に改訂された新学習指導要領に準拠した新しい学習の内容を踏まえて作成した社会科副読本により、児童が地域への知識や理解を深め、教科書だけでは得られない実感を伴った学習を可能にし、学習意欲の向上につながった。  ●令和10年度の改訂については、内容だけでなく、1人1台端末でも活用できるデジタルコンテンツの拡充なども検討する必要がある。	3

大学連携事業	<p>○山梨大学及び山梨県立大学と連携のもと、大学に出向き、将来教員を目指す学生に対して中央市立小中学校の説明を行い、「教育ボランティア」として募った。応募者を市内小中学校へ配置した。</p> <p>4～9月：3名、10～3月：3名</p> <p>○包括連携協定を締結している山梨大学の医学部附属病院の医師と連携し、地域社会の健康づくりを目的とする「PROJECT ZERO」において、同医師による減塩やウェルビーイングの向上等の健康教育の授業を行った。</p> <p>対象：小学5年生（6小学校） 中学2年生（2中学校）</p>	<p>○児童・生徒へのきめ細やかな指導のもと学力を向上させるとともに、教職員を目指す学生の学びを深めるために寄与することができた。当初、学生から多くの応募があったが、交通手段等の要因により最終的な応募者が少なかった。</p> <p>●今後は、交通手段の要因による解消はできないが学生の学びの場としてPRしていく必要がある。</p> <p>○市内小中学校の児童・生徒に、「PROJECT ZERO」における減塩やウェルビーイングの向上等の健康教育の授業を行い、生活習慣病や健康寿命の延伸への興味・理解を深めた。学校においても担任教員から授業実施後にアンケート調査を行い次年度へ繋げる取組も行った。</p> <p>●次年度において、このアンケート調査の意見等をブラッシュアップし、より有意義な授業を行えるよう取り組む必要がある。</p>	3
メールビルダー事業	<p>○一斉メール配信システム「学校安心メール」等により、不審者情報などを保護者へ迅速に提供した。</p>	<p>○学校から保護者に対する的確・迅速な情報提供により、保護者の安心や満足度の向上につながった。</p> <p>○デジタルツールの活用により、紙文書削減ができた。</p> <p>○保護者との連絡ツールとして利活用が促進できた。</p> <p>●保護者からの欠席連絡など、これまでの一方的な通知だけでなく、双方向の連絡ツールとして使用できるかどうか検討する必要がある。</p>	3
施策	家庭地域の教育力の向上		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
家庭教育支援事業	<p>○保健師と連携した保護者への相談対応</p> <p>○家庭教育力の向上を図るため、子育てに必要な情報提供を目的とした事業の研究・検討し、令和7年度に家庭教育支援に関する研修会を実施するため予算化した。</p>	<p>○子育てにおける悩みや不安等を抱えている保護者に子どもとの関わり方などについて保健師との連携の中で相談・助言を行い、保護者の自信と安心感の向上、子育てスキルの向上につなげることができた。</p> <p>●家庭教育力の向上のため、家庭教育に関する学習機会や相談体制の充実を図る必要がある。</p>	2
青少年育成事業	<p>○青少年育成中央市民会議が主催する「家庭の日」啓発作品募集事業へポスター、標語、作文、子どもフォトなどへ2,047点の応募があった。11月1日に子ども・若者育成支援推進大会を開催、特選者31名を招待し表彰及び作品の発表を行った。</p>	<p>○家族の絆を深めることを目標にした事業展開が浸透してきており、作文・標語・ポスター・子どもフォトとも心温まる作品が多く見られた。</p> <p>●本事業は、青少年の育成にはまず家庭がベース（核とコミュニケーションから始まる）であるとの理念から、「家庭の日」等の啓発事業を行っているが、青少年数の減少や多様化する家族形態等により参加者応募者の減少が続いている。今後は、既存の事業展開だけでなく青少年が家庭の絆を再確認できるような新たな事業展開等検討する必要がある。</p>	3



施策の方向性		いきいきと学び続けられる生涯学習の充実		
施策		生涯学習の推進		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価	
二十歳のつどい事業	○「二十歳のつどい」の開催 開催日：令和7年1月12日（日） 会場：アピオ甲府	○代表者による社会の一員となる決意が感じられる「誓いのことば」や元生徒会役員等の協力のもと作成された「恩師ビデオメッセージ」の上映など、出席者にとって人生の節目となる式典を開催することができた。  ●参加者は例年約7割前後となっているため参加者を増加させる対策を考えていく必要がある。 ●障がいの有無や国籍など、様々な状況にある全ての20歳の若者が、分け隔てなく、共に参加できるインクルーシブ開催等についても取組みを進めていく必要がある。	3	
公民館事業	○公民館活動として、高齢者のための「まごころスマホセミナー」や、「フラワーアレンジメント教室」、「ヨガ教室」を実施した。	○市民ニーズに沿った事業展開ができた。  ●現在の公民館事業としては、地域に限定した公民館事業を行うための人材不足等があることから、実際に実施した各教室等は「生涯学習(社会教育)事業」として行われていた。今後は、現在の18分館(田富地区4分館、豊富地区14分館)の統廃合による機能集約を図り、地域のニーズに見合った事業展開ができる体制づくりを計画する必要がある。 ●社会教育主事や公民館長の不在等により、各種事業活動の偏重を余儀なくされていることへの対策も必要である。	3	
生涯学習推進事業	○生涯教育講座の開催(14講座) 主な講座 ・高齢者のためのスマホ教室 ・細筆教室 ・楽しいパンづくり教室 ・ヨガ教室 ・ハンドセラピー教室 ・フラワーアレンジメント教室 ・まごころコンサート	○市民ニーズに沿った事業展開ができた。また、事業効果としても、参加者によるアンケート結果から、当初の目標を達成した事業内容であった。  ●今後は多様化しているする市民ニーズに応えられる各種事業を行うために、専門性を備えた人材の確保や開催場所の確保(玉穂学習館や総合会館等は独自事業の実施や各種団体の事業等により確保が難しい状況)が課題である。	3	
施策		生涯スポーツの推進		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価	
保健体育事業	○スポーツ推進委員協議会の活動 ○ヴァンフォーレ甲府「中央市サンクスデー」 【主な事業】 ・市民ウォーキング大会(年2回) ・高齢者と一般成人を対象とした体力テスト測定会 ・パラスポーツを取り入れた軽スポーツ普及 ○ヴァンフォーレ甲府「中央市サンクスデー」 6月22日（土）にJITリサイクルインクスタジアムにおいて多くの市民の運営協力により行われた。 【運営協力】 ・エスコートキッズ等に抽選で選ばれた「市内小学1年生」 ・フェアプレイフラッグ 「田富SSS」 ・ボールパーソン 「玉穂中学校サッカー部」 ・チャレンジマッチ「田富SSS 対 玉穂FC」 ・PRブース 「た・から、道の駅とよみ、中央市商工会青年部」	○スポーツ推進委員協議会の独自事業により、市民へのスポーツの普及が図られた。  ●各種事業によって参加者の数に格差が生じている状況となっている。今後においては、開催日程や開催方法等を再考し、幅広く市民が参加できるよう検討する必要がある。	3	

生涯スポーツ事業	<p>○生涯スポーツの推進</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市スポーツフェスティバル</li> <li>・市民ウォーキング大会(河口湖・富士川クラフトパーク)</li> <li>・シニア世代の健康増進や体力維持を目的としたシニアわくわく健康運動教室</li> <li>・女性のためのシェイプアップサッカー教室</li> <li>・スキー・スノーボード教室</li> </ul> <p>○スポーツ協会の活動</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトバレーボール大会</li> <li>・ソフトボール大会</li> <li>・ゲートボール大会</li> <li>・市民ゴルフ大会</li> <li>・市民グラウンド・ゴルフ大会</li> <li>・浅利与一顕彰弓道大会</li> <li>・市民フットサル大会</li> <li>・グラウンド・ゴルフ教室</li> <li>・初心者弓道教室</li> </ul>	<p>○多くの市民が参加した各種生涯スポーツ事業を実施できた。また、参加者のアンケート結果等から、当初の目的を達した事業結果となったことを確認できた。</p> <p>○年間を通して、市民のスポーツニーズに応じた各種大会が開催できた。また、参加者数についても、大会により参加者数の増減はあるものの、全体的には例年通りの参加者数規模により開催することができた。</p> <p>●今後については、幅広い年代、障がい等や国籍等様々な状況にある市民等が共に参加できる「インクルーシブな大会」が開催できる組織体制を市スポーツ協会が構築していく必要がある。</p>	3
玉穂B & G 海洋センター事業	<p>○玉穂B&amp;G海洋センターは、令和4年5月から指定管理制度により運営等を行う。</p> <p>・利用者は延べ7,889人(一般利用者・学校利用者等)</p> <p>・B&amp;G財団との関連で、中部ブロック連絡協議会総会(5月)、全国教育長会議(11月)、全国サミット(1月)に参加した。</p>	<p>○玉穂B&amp;G海洋センター(プール)を適切に管理運営を行い、市民の生涯スポーツの振興と健康増進に努めた。</p> <p>○B&amp;G財団が推奨する事業への貢献と地域への海洋教育などが評価され、3年連続「特A」の評価を受けることができた。</p> <p>●昨今の異常気象による熱中症への対策が必要である。</p>	3
体育施設の管理整備事業	<p>○体育施設の管理</p> <p>施設の維持管理のため整備・修繕を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉穂ふるさとふれあい広場(テニスコート)</li> <li>・田富北小運動場(夜間照明)</li> <li>・田富南小(外トイレ、体育館天板)</li> <li>・玉穂南小(外トイレ浄化槽)</li> <li>・田富北体育館(床修繕、屋根修繕、コンセント取替え)</li> <li>・浅利テニスコート(人工芝)</li> </ul>	<p>○体育施設の適正管理に努めた。</p> <p>○令和7年3月に、田富北体育館の床修繕工事を行い、卓球や体操、バレーボール、バスケットボール等に利用され、利用団体に好評を得ている。</p> <p>○田富北小学校グラウンド夜間照明の整備を行った。</p> <p>●施設の老朽化による維持管理対策が必要である。</p>	3
施策	図書館活動の推進		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
ブックプレゼント事業	<p>○ブックプレゼント事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生の節目における良書との出会いにより読書の楽しさを知り、生涯にわたって読書に親しむ気持ちを育成することを目的とした事業。</li> </ul> <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校入学児</li> <li>・新入生ブックプレゼント(238人)</li> <li>・中学校卒業生</li> <li>・卒業生ブックプレゼント(256人)</li> </ul> <p>○ブックスタート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を介して親子が心ふれあう時間をもつきっかけとなることを目的とした取組み(153人)</li> </ul>	<p>○ブックプレゼント事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生ブックプレゼント</li> <li>入学式に希望の本を決め、後日各小学校にてブックプレゼントセレモニー(贈呈式)を開催し贈呈した。。その際、図書館ボランティアグループによる読み聞かせも実施した。市外小学校入学児12人には個々対応にて贈呈した。</li> <li>・卒業生ブックプレゼント</li> <li>事前に希望本を調査し、卒業式に中学校卒業生に本を贈呈した。市外中学校卒業16人には個々対応にて贈呈した。</li> </ul> <p>○ブックスタート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7か月の乳児健診時にブックスタートボランティアが絵本(選書4冊)の読み聞かせを行い、うち希望する2冊を贈呈した。</li> </ul> <p>○市による各種ブックプレゼント事業については、マスコミ(山日新聞、NHK甲府放送局)による取材や情報発信があり、他自治体以上の取組みであることを再確認することができた。</p>	3

玉穂生涯学習館事業	<p>○実施した事業（市立図書館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文学講演会</li> <li>・図書館ボランティア養成講座</li> </ul> <p>○実施した事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学教養講座</li> <li>・がくしゅうかんまつり（7講座）</li> <li>・おはなし会（協力：図書館ボランティアグループ）の開催（年齢に応じて月1または2回） ・玉穂保育園園児への「読み聞かせの会」の開催（月1回）</li> <li>・カーニバル、クリスマス会</li> <li>・「司書シアター」子育て支援センターにて開催（月1回）</li> <li>・「音楽会」甲府地区消防本部音楽隊の街の音楽隊がやってくる開催</li> <li>・「図書館シネマ」（所蔵するDVD）</li> <li>・健康講座（年2回）落語、健康体操</li> <li>・世界発見バスポート事業 第1弾 韓国編（3回）</li> <li>・学習館事業</li> </ul> <p>御朱印帳づくり、寄せ植え教室、いも版画教室、正月飾り、羊毛フェルトあそび、ジェルキャンドル、紅型染体験教室、終活ノートの書き方教室 ・新春二胡演奏会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むかしがたりの会</li> <li>・朗読会 夢舎</li> <li>・ロビー展示（通年）</li> </ul> <p>○豊富図書館（玉穂生涯学習館の分館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなし会（協力：図書館ボランティアグループ）（月1回）</li> <li>・「おりがみでたのしみましょう」（折り紙ボランティア）（月1回）</li> <li>・豊富児童館にのほななし会（月1回）</li> </ul>	<p>○これまで以上に事業展開を図るように心がけ、事業を通して生涯学習の推進や図書館利用促進へつなげるように努めた。</p> <p>○事業への参加を通して初めて学習館へ来た方や学習館を知らなかった等の声が多く聞かれた。また、利用者が興味や学ぶきっかけとなる事業を計画し、必ず関係する本の展示により紹介、貸出につなげた。</p> <p>○生涯教育課との共催事業の実施、放課後児童クラブへの呼びかけをしたことにより参加者が増加した。</p> <p>●今後も乳幼児から高齢者まで生涯を通して学べる場としての役割を果たすため、事業を企画・運営し、開催にあたり呼びかけ等周知の徹底をしていく必要がある。</p> <p>●各種活動成果の展示やワークショップの開催など、ロビースペースの活性化に努めていく。</p>	3
田富図書館事業	<p>○実施した主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「としょかんまつり あんど わいわいひろば」</li> <li>・「ちょっときのはやいクリスマスのつどい」</li> <li>・「おとなを休むひととき」</li> <li>・親子体験教室「消しゴムはんこ」</li> <li>・講座 山梨力をつける「地方病について」</li> <li>・夢まっしぐらシリーズ「かんたん！ゆび編み体験」</li> <li>・読み聞かせ会（協力：図書館ボランティアグループ）の開催（月1回）、田富第1保育園園児への「読み聞かせの会」の開催（月1回）、田富第3・北保育園園児への「読み聞かせの会」の開催（隔月）</li> </ul>	<p>○各種事業を通常どおり実施し、図書館利用の促進に努めた。各事業が定着し、参加者も一定数あり、来館の機会につながっている。</p> <p>●図書館ボランティアについて、担い手が高齢化しており活動の持続性と多様性を維持するため、若い世代が活動に参加してもらえるような対策が必要である。</p>	3
図書資料整備事業	<p>○各館の資料整備（購入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉穂生涯学習館 児童書2,149冊、一般書3,631冊、CD・DVD106点</li> <li>・豊富図書館 児童書741冊、一般書601冊</li> <li>・田富図書館 児童書1,416冊、一般書2,398冊、CD・DVD155枚</li> </ul> <p>○図書や視聴覚資料、雑誌の年間貸し出し件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉穂生涯学習館 157,625点</li> <li>・豊富図書館 7,907点</li> <li>・田富図書館 121,424点</li> </ul>	<p>○それぞれの図書館において特色を出せるように購入図書の選定を行った。</p> <p>○話題の小説や各分野での最新本をはじめ、利用者からのリクエストカードをもとに図書の選定を行った。</p> <p>○各種事業の開催時には、関連書籍の展示、紹介を行い、図書の貸出数の増加に努めた。</p> <p>○玉穂生涯学習館では、所蔵する視聴覚資料を活用した事業を開催し、視聴覚資料の貸出数の増加に努めた。</p>	3
図書館施設整備事業	<p>○前システム構築より5年経過したため市内図書館システム構築を実施</p> <p>○玉穂生涯学習館は、開館より25年以上経過しているため設備等の故障箇所も増えている。そのため随時、修繕対応を行った。</p> <p>【修繕内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚ホール入口階段手すり設置</li> <li>・正面玄関マット取替</li> <li>・正面ポーチ御影石修繕</li> <li>・研修室の机キャスター</li> <li>・受水槽加圧給水ポンプ修繕</li> <li>・非常用照明器具取替修繕</li> <li>・屋外チラーユニット修繕</li> <li>・身障者用トイレ便器修繕</li> <li>・機械室エアハートリングユニット修繕</li> <li>・学習室LED化修繕</li> <li>・R部他屋上防水修繕 等</li> </ul>	<p>○図書館システムを更新することで利用者の利便性が向上した。</p> <p>○各施設の不具合箇所について、緊急性や必要性を考慮しながら修繕等を実施した。</p>	3

施策	歴史文化の継承		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
指定文化財管理事業	○山宮のケヤキ(市指定文化財：天然記念物)の剪定を実施	○山宮のケヤキ(市指定文化財：天然記念物)の剪定により、ケヤキを適切な状態で維持管理する事が可能となり、周辺の安全が確保できた。  ●文化財管理者の高齢化が著しく、後世に向けて文化財を適正に管理するため、新たな担い手の育成や、文化財の保護意識の醸成が必要である。	3
豊富郷土資料館活用事業	○歴史講座、講演会、わんぱく与一まつり等を豊富郷土資料館と合同で実施した。	○豊富郷土資料館と合同で歴史講座、講演会、わんぱく与一まつり等を実施したことにより、郷土資料館を訪れるより多くの機会を創出した。  ●今後も資料館の魅力を発信するイベントづくりが必要である。	3
文化協会助成事業	○中央市文化協会が主催する文化祭を開催した。 ○文化芸術活動の各団体への活動支援を行った。	○中央市文化協会主催の文化祭を玉穂総合会館で5年ぶりに開催することができた。  ●文化協会専門部の退部が複数あり、会員が減少しているため、会員数を増やし文化芸術発表の場を維持する対策が必要である。	3
埋蔵文化財保護事業	○埋蔵文化財包蔵地での開発への対応 ○発掘調査成果の市民への周知	○埋蔵文化財包蔵地での開発に係る14件の届出・通知に対し、試掘調査、工事立会、慎重工事の対応で遺跡の不測の破壊を防いだ。 ○年間379件の包蔵地の照会に対しても適切に対応した。 ○二子塚古墳、上窪遺跡（12次）発掘調査の成果を講演会、講座等で市内外に周知した。  ●専門性を有した学芸員が配属されているが、他事業との兼務業務が多く、専門性が発揮できない状況にあるため人的支援が必要である。 ●本市内には、数多くの埋もれたままの状態の埋蔵文化財があり、専門の学芸員が力量を発揮できる体制づくりが必要である。	3



施策の方向性	教育機会の創出と充実		
施策	教育機会の保障		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
特別支援教育事業	<p>○教育委員会に教育指導監を配置し、就学する子どもの相談等を行った。</p> <p>○院内学級の設置・運営</p> <p>○通常級に在籍する児童・生徒の困難さ等の実態把握のためWISC検査を実施</p> <p>○特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費の支給</p>	<p>○教育指導監が支援学校・支援学級・通常級の見学同行等を行い、保護者や関係機関と連携し「一人ひとりのニーズに合わせた」子どもの学びの場を検討し就学に繋げることができた。</p> <p>○院内学級では、病のある児童・生徒の学ぶ機会を保障するとともに、大学と連携して児童・生徒の病状を理解し支援することができた。</p> <p>○WISC検査の実施により、必要に応じ医療に繋がったり、支援学級への入級に繋げることができた。</p> <p>○特別支援教育就学奨励費の支給により、保護者へ経済的負担の軽減が図られた。</p> <p>●特別支援学級の在籍児童・生徒数が増加傾向にあり、個々のニーズに合わせたきめ細やかな対応を行っていくための体制強化が必要である。</p>	3
貧困対策推進事業	<p>○中央市・中央市教育委員会・フードバンク山梨の三者協定に基づき、経済的に困難で支援を希望する世帯に対して食料支援の実施(78世帯)</p> <p>○経済的に困難を抱える世帯への就学援助費の支給</p>	<p>○学校給食が実施されない夏季及び冬季の学校が休みの期間に経済的に困難で支援を希望する世帯に対して食料支援を行った。</p> <p>○就学援助費の支給により、保護者への経済的負担の軽減が図られた。</p>	3
教育支援センター(不登校児童・生徒相談支援)事業	<p>教育支援センター(令和2年度に中央市、昭和町で共同設置。令和6年度末に共同設置廃止し、令和7年度から各市町で単独設置)</p> <p>○学校へ登校することが困難な児童・生徒への学習支援・教育相談</p> <p>【中央市相談件数】144件(R6.4.1～R7.3.31)</p> <p>【中央市在籍者数】5名(R7.3.31現在)</p> <p>○入所生徒や保護者へのカウンセリング</p> <p>○毎月、中央市教育委員会・昭和町教育委員会・支援カウンセラーと「支援会議」を開催</p> <p>【開催回数】12回</p> <p>○市内小中学校との連携</p>	<p>○学校へ登校することが困難な児童・生徒への学習支援・教育相談を行い、保護者や学校と連携する中で、学校復帰・高校進学を目指した取り組みとなった。</p> <p>○相談支援員と支援カウンセラーによる入所児童・生徒や保護者へのカウンセリングを通して児童・生徒への支援ができた。</p> <p>○毎月、支援会議を開催し、児童・生徒の状況や支援内容の情報共有・検討を行い、個別の支援に生かすことができた。</p> <p>○センターを利用する児童。生徒の出席状況や学習内容を在籍校に報告することにより、学校における適切な支援につながった。</p> <p>●センター内の活動だけでなく、他の施設を利用した活動(校外学習)を計画し、児童・生徒の成長と自立につなげる機会を増やしていく必要がある。</p> <p>●センターを利用していない児童・生徒に対するアプローチを検討すると同時に、人的・施設の収容能力を上げるため、支援教員の確保やセンターの新たな設置場所の検討が必要である。</p>	3
外国籍児童生徒第三の居場所事業	<p>○外国籍児童・生徒を対象とした居場所事業の開始(令和6年3月～)</p> <p>実施場所：中央市布施地内(旧リニア事務所)</p> <p>登録定員：25名程度</p> <p>利用者：1日10名以上</p>	<p>○外国籍児童・生徒の日本語や日本文化等の理解を深め、学校や日常生活における困難さを解消するとともに、学習支援を含めた放課後の居場所となった。</p> <p>○登録申込は、定員25名のところ、31名であった。1日7名以上の利用を目標としていたが、平均10名以上の利用があり事業開始時の目標を達成することができた。</p> <p>●今後は、他機関と連携する中で本事業が独立した運営となるように協議を進める必要がある。</p>	4
外国人児童生徒等支援事業(再掲)	<p>○外国籍児童・生徒の増加や多様化に伴い、きめ細やかな支援体制整備が必要とされるなか、日本語指導員(市単)・学級担任等の関係職員が連携し、外国籍児童・生徒の実態に応じた支援や指導を実施した。</p>	<p>○日本語指導員とポルトガル語通訳を「三村小学校・田富小学校・田富南小学校・田富中学校」に配置することにより、日本語指導教室での学習支援や外国から直接入国する児童・生徒及び保護者への対応、高校進学や就職等将来の進路に向けた制度の周知など相談体制の充実を図ることができた。</p> <p>●玉穂・豊富地区の兼務体制にある学校(玉穂南小学校・豊富小学校・玉穂中学校)に在籍する児童・生徒が増加した場合、必要に応じて任用時間増などを検討する必要がある。</p>	3

<p>地域ぐるみの学校安全 体制整備事業</p>	<p>○児童・生徒が安全で安心な登下校が行えるため活動している防犯ボランティア「こどもまもり隊」の活動支援のため保険に加入した。 ○一斉メール配信システム「学校安心メール」等を活用 ○学校・教育委員会・市道路管理者や危機管理課などの関係部署・県道路管理者・警察による「通学路における合同点検」結果における現場の確認 ○小学生児童に対する安全学習の実施</p>	<p>○「こどもまもり隊」は交通量の多い交差点での定点見守り、人通りの少ない道などで子ども達を見守る活動など、地域住民による声掛けや見守り活動により、大きな事故や犯罪を防ぐことができた。 ○一斉メール配信システム「学校安心メール」等の活用により、警察からの情報や各学校に寄せられた不審者情報などを保護者などへ迅速に情報提供をすることができた。 ○「通学路における合同点検」が実施された現場について順次必要な対応を進めたことにより、通学路の安全確保につながった。 ○小学生児童に対して、校外学習で警察署と連携した集団で安全な登下校が行えるように学習の実施や実地訓練を通じた自転車の正しい乗り方を学習することができた。</p>	<p>3</p>
------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------

施策の方向性	教育の質の向上のための基盤整備		
施策	学校施設の整備		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
ICT教育環境整備事業	<p>○令和6年度はGIGAスクール構想で整備した高速大容量ネットワークと児童・生徒1人1台端末の運用開始から4年目となる。</p> <p>令和6年度は更なる環境整備の拡充への取組を行った。</p> <p>○R7年度に実施する1人1台端末の更新に向けて、中央市ICT推進計画を策定した。</p> <p>○市内小中学校の教職員PC端末の更新を行った。</p> <p>○教職員がパソコン利用に際して技術的な支援が必要な時に即座に対応ができるよう遠隔支援ができるソフトウェアを導入した。</p> <p>○経年劣化による故障が相次いでいる1人1台端末の予備機を20台購入したが、その後も故障機が相次いだため、更改で不要になった教職員PC端末をchromeフレックス化し対応を行った。</p> <p>○R8年度から導入されるSaas型校務支援システムの導入に際し、今後本市の校務系ネットワークをゼロトラストネットワーク化の設計を実施した。</p> <p>○中央市教育ICT推進計画の策定</p> <p>【令和7年度～11年度】</p> <p>○ICT環境の整備（教職員用端末の更新）</p> <p>○1人1台端末経年劣化対応予備機購入（20台）</p> <p>○中央市ICTポータルサイト拡充</p> <p>○デジタル学習ドリルの変更導入検討実施</p> <p>○ゼロトラストネットワーク化構築設計の実施</p>	<p>○中央市ICT推進計画策定しホームページにて公開することで、子ども主体の授業実践のため、環境及び機器等の整備を行っていく必要性を広く共有することができた。</p> <p>○教職員PC端末を更改に合せて台数を精査することで、端末不足を解消し、これまで配備できていなかった市単教員にもPC端末を配備できた。</p> <p>○教職員から問い合わせに対して遠隔で対応できるようにしたため対応開始までの時間を大幅に短縮することができた。</p> <p>○Chromeフレックスの導入により、予備機の購入台数を最低限に抑えることができた。</p> <p>○ゼロトラストネットワーク化の設計を行うことで、費用規模や使用環境の変更点を明確化できた。</p> <p>●近隣市町村では整備済みの特別教室や体育館へのネットワーク環境が未整備のための、今後整備が必要であるが、費用や整備完了時期を考慮し、暫定措置を検討する必要がある。</p> <p>●1人1台端末と電子黒板とを無線画面転送するストリーミング機器の導入を検討し、教職員がきめ細やかな学習指導が行えるよう環境作りをする必要がある。</p> <p>●学校現場から依頼のあったデジタル学習ドリルの変更検討のためデモ導入などを行い、比較検討する必要がある。</p> <p>●R8年度から導入されるSaas型県下統一校務支援システムを利用するため、R7年度にはゼロトラストネットワークの構築を行い、リモートワークの手順を含めスムーズな導入に向けて学校現場に丁寧な説明を行う必要がある。</p>	3
学校長寿命化等推進事業	<p>○平成30年度策定の「中央市立小中学校施設長寿命化計画」に則り学校施設の長寿命化改修等を実施した。</p> <p>○令和7年度に完了させるため、田富小学校校舎長寿命化改修工事の契約を締結し議会承認を得た。</p> <p>○令和7年度から令和8年度にかけて田富小学校屋内運動場長寿命化改修を実施するため設計業務に着手した。</p>	<p>○計画通り令和7年10月末を完成期日として令和6年5月に田富小学校校舎長寿命化改修工事に着手できた。</p> <p>○屋内運動場長寿命化改修設計を発注したが、建物調査の段階での耐震性能に疑義が生じたため耐震診断を行った結果、耐震性能が不足していることが判明し、急遽設計内容を変更し耐震補強計画を策定した。</p> <p>○田富小学校屋内運動場長寿命化改修については、耐震補強工事が必須となったため、令和7年度設計、令和8年度耐震補強・長寿命化改修工事着手、令和9年度工事完了とする実施計画に変更した。</p> <p>●屋内運動場が利用できなくなったことから代替施設の確保など学校との各種調整が必要である。</p> <p>●国庫補助を受けるために、県への相談が必要である。</p>	3
学校施設あり方検討事業	<p>○「中央市の学校のあり方に関する提言」（令和5年11月）に基づき、今後のあり方について早急に結論付ける必要がある学校ごとに「地域検討会議」を開催した。</p>	<p>○三村小学校区2回、玉穂南小学校区3回、豊富小学校区1回の計6回開催した。</p> <p>○会議資料・協議内容をホームページで公開し開かれた協議の実施に努めた。</p> <p>○これまでの経緯等をまとめたホームページを新たに作成し市民への情報提供を行った。</p> <p>●令和7年度については、三村小学校と玉穂南小学校の代表者による会議を開催し両学校区における学校再編に関して協議を行う。</p>	3
各学校施設及び設備等整備事業	<p>○大型修繕を含む各学校施設の施設・設備に対する整備事業</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田富北小学校新運動場整備工事</li> <li>・玉穂南小学校電話設備更新工事</li> <li>・玉穂南小学校屋内運動場音響設備購入</li> <li>・田富北小学校屋内運動場床修繕工事</li> <li>・田富南小学校エアコン取付工事</li> <li>・豊富小学校正門設置工事</li> <li>・玉穂中学校合併処理槽点検口改修工事</li> </ul>	<p>○平成28年度から開始した田富北小学校移転整備事業について、新運動場整備工事等を実施し、事業を完了させた。</p> <p>○夏休み期間を使用し学校運営に支障をきたすことなく学校の施設や設備等の改修・修繕を行った。</p> <p>○補修方法や予算措置時期も含めて各学校と調整し、施設の安全管理通じて子ども達の教育機会の確保に努めた。</p> <p>●今後の課題としては、文部科学省が示す非構造部材の点検を実施し、耐震性能や安全性を確認する必要がある。</p> <p>●特定建築物定期調査や各種保守業務の点検結果による指摘事項について、計画的に修繕を実施していく必要がある。</p> <p>●屋内運動場への空調整備など時勢や国の動向を受け、必要に応じて施設整備方針の検討が必要である。</p>	3

施策	学校における働き方改革の推進		
事務事業名	実績	成果又は課題	評価
教員の多忙化改善取組推進事業	○教員の多忙化改善の推進への取組みを行った。 ・計画的な留守番電話の設置 ・勤怠管理システムの運用による教員の勤務時間や勤務状況の把握 ・部活動指導員の配置 ・定時退行校日(きずなの日)や学校閉庁日の設定・実施	○留守番電話設置計画作成 電話機の整備計画により、令和6年度に全小中学校に留守番電話(ナンバーディスプレイ機能)の設置が完了し、夜間・週休日等の業務時間外の電話対応による負担の軽減ができた。 ○勤怠管理システムの運用 勤怠管理システムの運用により、各校の管理職が客観的な目線で管理することで、的確な勤務時間の把握や残務時間の指導を行うことができた。 ○部活動指導員の増員 玉穂中学校(吹奏楽部)に部活動指導員を1名配置し、部活動における教員の負担が軽減された。 ●教員の多忙化改善には、業務量の削減や、外部人材の活用、業務のICT化、勤務時間の管理徹底などがあり、総合的な取組が必要である。	3
専門スタッフ等外部人材活用事業	○部活動外部指導者の配置 ・玉穂中学校 野球部1名、吹奏楽部に各1名 ・田富中学校 男子バレーボール部1名、サッカー部2名 ○スクールカウンセラーの配置 R6(8校計)258回 1,326時間	○部活動外部指導者の雇用により、部活動を指導する教員への支援ができた。 ○県の「スクールカウンセラー等活用事業」により市内全小中学校にスクールカウンセラーの配置により、いじめや不登校等の未然防止、改善及び解決や学校内の教育相談体制等の充実と教員の資質能力の向上が図られた。  ●今後も、県のスクールカウンセラーの積極的な活用を促進し、児童生徒たちが抱える不安や問題の軽減し、不登校などの未然防止・早期発見・早期対応に繋げていく必要がある。	3
学校と教育委員会の連携協力事業	○毎月、市内各小中学校の管理職と教育委員会事務局において「八校会」を開催した。 ○学校の施設整備・教育環境や教職員の職場環境の向上を図るため、各学校と課題等の情報共有を行った。	○八校会の開催により、市の教育方針や指導及び情報共有を図ることにより連携協力体制を深めることができた。 ○毎年、新年度予算要求に向けて、事務局職員が市内各小中学校を巡回訪問し、各校の要求についての聴き取り調査や現場確認を行うことにより、実情に沿った予算要求ができた。 ○教育委員による学校訪問により、学校の実情や要望を把握し教育行政に生かすことができた。  ●教育委員会が開催する会議においてもペーパーレス化するなど、教育委員会も教員の多忙化改善推進へ取り組んでいく必要がある。	3

3. 前年度の点検評価結果における課題に対する取組状況に対する点検・評価

前年度に実施した点検評価 において課題とされた事務 事業	前年度の 評価	課題に対する今年度の取組状況		評価
		実績	成果又は課題	
外国語教育（ALT派遣）推 進事業	2	<p>○外国人指導助手（ALT）を中学校では全校（2校）、小学校では兼務により田富地区（3校）に1名、玉穂・豊富地区（3校）に1名の計4名を配置し、ネイティブスピーカーの活用により外国語教育を促進した。</p> <p>○小学校では、高学年の外国語授業を中心として、中学年の外国語活動、低学年の国際理解教育の授業に関わり、コミュニケーション能力の育成を重視しながら、児童が主役となって英語を使い、異文化の理解と交流できる力を育むことに繋がった。</p> <p>○小学校の3校兼務の状況の中、綿密な勤務調整により効果的な活用の推進に繋がった。</p> <p>○中学校では、各校配置により、日常的に生徒との関わりが持て、対話的な言語活動による外国語教育が実施できた。</p> <p>○デジタル教材を効果的に活用できる環境を整備した。</p>	<p>○ネイティブスピーカーの活用により、日常的に使う表現や語彙、正確な発音、フレーズに触れることで、より自然で幅広い表現の生きた英語表現をの取得する機会の提供につながった。</p> <p>○オリジナル学習支援動画を活用し、英語学習に効果的なICTの活用促進により、外国語教育の推進が図られた。</p> <p>●今後もALT配置数の数値目標（6名）に向け取組を計画的に行うと同時に、ALTの活用について、調査・研究を行い、同計画の数値目標への検証を行う必要がある。</p>	3
中学校語学研修事業	1	<p>○令和6年度においても渡航による語学研修は実施しなかった。この事業の目的である現地の人々との交流、多文化共生、国際理解を深め、グローバル社会を生きていく人材の育成において、同事業に代わる他事業の展開への研究・調査を行った。</p>	<p>○渡航による語学研修は、保護者の経済的負担などの費用面に加え、生徒の安心安全の確保などこれからの事業実施においては、検証が必要である。</p> <p>●ALTの配置拡大やICT教材の活用など、一部の生徒に限ることなく、国際理解とコミュニケーション能力を備えた人材育成を図り、外国語や多文化について学習する機会が得られる学習環境の整備が必要である。</p>	2
大学連携事業	2	<p>○山梨大学及び山梨県立大学と連携のもと、大学に出向き、将来教員を目指す学生に対して中央市立小中学校の説明を行い、「教育ボランティア」として募った。応募者を市内小中学校へ配置した。</p> <p>4～9月：3名、10～3月：3名</p> <p>○包括連携協定を締結している山梨大学の医学部附属病院の医師と連携し、地域社会の健康づくりを目的とする「PROJECT ZERO」において、同医師による減塩やウェルビーイングの向上等の健康教育の授業を行った。</p> <p>対象：小学5年生（6小学校） 中学2年生（2中学校）</p>	<p>○児童・生徒へのきめ細やかな指導のもと学力を向上させるとともに、教職員を目指す学生の学びを深めるために寄与することができた。当初、学生から多くの応募があったが、交通手段等の要因により最終的な応募者が少なかった。</p> <p>●今後は、交通手段の要因による解消はできないが学生の学びの場としてPRしていく必要がある。</p> <p>○市内小中学校の児童・生徒に、「PROJECT ZERO」における減塩やウェルビーイングの向上等の健康教育の授業を行い、生活習慣病や健康寿命の延伸への興味・理解を深めた。学校においても担任教員から授業実施後にアンケート調査を行い次年度へ繋げる取組も行った。</p> <p>●次年度において、このアンケート調査の意見等をブラッシュアップし、より有意義な授業を行えるよう取り組む必要がある。</p>	3
家庭教育支援事業	2	<p>○保健師と連携した保護者への相談対応</p> <p>○家庭教育力の向上を図るため、子育てに必要な情報提供を目的とした事業の研究・検討し、令和7年度に家庭教育支援に関する研修会を実施するため予算化した。</p>	<p>○子育てにおける悩みや不安等を抱えている保護者に子どもとの関わり方などについて保健師との連携の中で相談・助言を行い、保護者の自信と安心感の向上、子育てスキルの向上につなげることができた。</p> <p>●家庭教育力の向上のため、家庭教育に関する学習機会や相談体制の充実を図る必要がある。</p>	2

備考 評価欄には、次の評価の区分により達成度を評価し、記号を付すこと。

- 5 目的をはるかに超え、他への波及効果が見られるもの
- 4 目的以上に達成したもの
- 3 目的どおり達成したもの
- 2 目的まで達成できなかったもの
- 1 目的までまったく達成できなかったもの

## IV 教育委員会の点検・評価に関する学識経験者からの意見

教育委員会の自己点検・評価について、教育に関して学識経験を有する者から、次のとおり意見を聴取しました。

(学識経験者) 山梨県立大学教授 池田 充裕

### 1. 教育委員会の活動及び運営状況について

- ・教育委員会の開催状況として、令和6年度は定例会を12回、臨時会を2回開催し、それぞれの回で数多くの付議案件や報告事項に関して協議・検討がなされました。また、総合教育会議では市長と教育委員会との間で第2次中央教育振興基本計画の見直しに関して意見交換を進め、教育行政に関わる市の意思決定を円滑に進めてきたことは高く評価できます。
- ・昨年度と同じく、教育委員が市内の全ての小中学校を訪問し、現場からの意見・情報を積極的に収集してきたことは、素晴らしい実績であると高く評価できます。また県内外で開催された研修会には昨年度よりも多く参加し、教育委員の役割や今般の教育をめぐる動向についての理解を深め、教育委員会を核とする教育行政の活性化に鋭意取り組んできました。例年、各学校で催される入学式・運動会等の学校行事にも多く参加して、子どもたちや教職員の日々の取り組みの成果を温かく見守ってきました。委員一人ひとりの教育的情熱とその使命感、自己研鑽の姿勢に心から敬意を表します。
- ・昨年度、「中央市立学校のあり方検討委員会」から提出された提言書に基づき、令和6年度は関連する3つの小学校で地域検討会議が計6回開かれ、学校再編に関する意見交換を丁寧に進め、その会議資料や会議録も市ホームページで公開し、市民の皆さんへの周知を積極的に図ってきたことも高く評価できます。今後も学校配置の検討の過程で生じる諸課題について、教職員や保護者、地域住民、専門機関等と情報を共有し連携しながら最適解を見いだせるように、きめ細かく協議・検討を進めていくことを期待します。

### 2. 教育委員会による自己点検・評価について

- ・報告書では、数多くの項目に関して点検・評価の結果が示されていますが、今年度から末尾に「前年度の点検評価結果における課題に対する取組状況に対する点検・評価」のページが新たに追加され、前年度に課題となっていた事業が当該年度にどのように改善されたのか（または改善されなかったのか）が、分かりやすく示されるようになりました。このような形で市の教育事業がどのように改善され、進展しているのかを明示することで、市民の皆さんの教育事業への理解がより深まり、併せて教育関係者の教育施策に対する説明責任もより明確となるだろうと考えます。小さなことではありますが、今後もこのような細やかな取り組みによって、市民の皆さんの教育への意識や教職員の職責への意識がより高まっていくことを期待します。

- ・「教育委員会の活動状況に対する点検・評価」に関しては、上述の通り、活発な委員会運営が継続されており、当初の目的が十分に達成されています。また、「教育委員会の事務事業の執行状況に対する点検・評価」では、新たに「学力向上推進事業」「コミュニティ・スクール推進事業」が点検・評価の項目に加えられました。いずれも時宜に適った事業であり、今後も所定の目的が継続して達せられるように期待します。
- ・前述の学校再編に関連する学校長寿命化事業や施設のあり方検討事業に加えて、今後は特に、教育支援センター（不登校児童・生徒相談支援）事業、外国籍児童生徒への支援事業・第三の居場所事業、ICT 教育環境整備事業、専門スタッフ等外部人材活用事業などについて、その緊急性・重要性がさらに高まっていくと考えます。山梨県や他の自治体とも連携を図りながら、貴市においても効果的な施策の立案・検討・実施・運用が鋭意進められていくことを期待します。